

2007年  
1月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
1日朝	<p>6 &lt;終わらない戦争 紛争を抱えている国・地域&gt;</p> <p>アフガニスタン 01年9月の米同時多発テロ後、米国による攻撃でタリバーン政権崩壊。05年夏までに帰還した難民は400万人を超えるとされる</p> <p>紛争で死亡した民間人と兵士の数 = 10万人以上、15歳以下の少年兵が存在し、平和維持、監視などの活動は国連と、その他の組織による</p> <p>カナダの「Project Ploughshares」財団の資料から05年の紛争国・地域を記載</p>		
	<p>33 &lt;2007年 主な日程予定&gt;</p> <p>4月内 ニューデリーで南アジア地域協力連合首脳会議&lt;アフガニスタンが正式加盟か&gt;</p>		
3日朝	<p>4 &lt;平和をつくる &gt; (郷富佐子)</p> <p>戦場医 人質も救う</p> <p>アフガンで交渉「命のため何でもやる」 ジーノ・ストラダさん</p> <p>昨年10月12日、アフガニスタン南部でイタリア人のフォトジャーナリスト、ガブリエレ・トルセッロ(36)が武装グループに拉致された。</p> <p>発生直後、南部ラシュカルガで「エマーゼンシー」が運営する病院の電話が鳴った。「我々は拉致犯だ。お前たちは今から、我々とイタリア政府の仲介役になれ」</p> <p>エマーゼンシーは、戦争・紛争地で無料の医療支援をしているイタリアの民間組織だ。「戦争犠牲者の9割を占める市民を救え」と94年、外科医のジーノ・ストラダ(58)が創設した。これまで中東、アフリカ、アジアの13カ国に病院やりハビリセンターなどを作ってきた。</p> <p>アフガンでは99年に活動を始め、すでに約100万人を治療した。「市民でもテロリストでもタリバーン兵士でも、負傷者ならみんな診る」という姿勢は、現地でも広く信頼されている。</p> <p>「信頼されるのはうれしいが、人質事件の仲介役は予想外だった。でも、命を救うためなら何でもやる。伊政府は現地にコネを持っていなかったから」と振り返った。</p> <p>電話の前でじっと待つ、眠れぬ日々が始まった。アフガンからの伊国軍の撤退。キリスト教へ改宗し、亡命したアフガン男性の引き渡し。拉致犯からの要求を伊政府へ伝え、政府からの「ノー」を拉致犯側へ。交渉は進まなかった。</p> <p>11月3日、病院へ拉致犯側から「ラシュカルガとカンダハル間の道路へ行け」と指示する電話があった。アフガン人のスタッフが駆けつけると、22日ぶりに解放されたトルセッロが立っていた。歓喜にわく病院へ、伊外相のダレーマから感謝の電話があった。</p> <p>一切の戦争を否定するストラダの転機は、心臓・肺移植の専門医だった80年代。赤十字の仕事で行ったアフガンで、おもちゃのような外見をした地雷の犠牲になった子どもたちに接した。</p> <p>「いじった子供を殺す目的の兵器があることが信じられなかった」。その怒りが「もっと多くの命を助けるため、柔軟に動けるNGOを作ろう」と決意させた。</p>		

2007年  
1月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>国際支援の届かない場所へ行くことこそ意味があると、あらゆる手段で危険地域へ入っていく。</p> <p>01年9月11日、ミラノの自宅で米同時多発テロを知ったストラダは「米国がタリバーン政権への攻撃を始め、多数の市民が負傷するだろう」と直感し、すぐイスラマバードへ飛んだ。</p> <p>トラックで七つの検問所を抜け、標高3千<sup>フィート</sup>の山中で夜を明かした。翌朝、馬で5千<sup>フィート</sup>近くまで登って国境を通過。タリバーン政権を説得し、閉鎖されていた病院を再開した。</p> <p>数人の友人と始めたエマージェンシーはいま、医師や看護師ら50人以上の国際スタッフを抱え、年間予算は20億円を超える。若者世代に「最高の英雄」を尋ねた伊の世論調査で、ローマ法王や南アの元大統領マンデラらを押さえ、ストラダが1位になったことも。</p> <p>個人や企業からの寄付が収入源だが、戦争や軍事介入にかかわる政府からの援助は受けない。99年にはコソボへ派兵した伊政府に反発し、40億円近い助成金を断った。</p> <p>ストラダは言う。「すぐに『何人、兵士を送ろうか』と検討したが政府には、ちょっと待ってくれと言いたい。戦争がもたらすのは別の戦争だけだ。私が欲しいのは、エマージェンシーのいない世界なんだよ」</p> <p>&lt;写真&gt;ジーノ・ストラダさん＝イタリア北部ミラノのエマージェンシー本部で、郷写す</p> <p>カーブルにあるエマージェンシーの集中治療室。病院の入り口には「武器の持ち込み禁止」の看板がかかっている＝エマージェンシー提供</p> <p>アフガン戦争</p> <p>02年9月の米同時多発テロへの報復として米国は同年10月、首謀者とみなす国際テロ組織アルカイダのオサマ・ビンラディン容疑者をかくまうアフガニスタンのタリバーン政権を攻撃した。約2ヵ月で同政権は崩壊。04年10月には大統領選挙が実施され、カルザイ大統領が就任したが、国軍や警察などの治安機構の確立が遅れている。北大西洋条約機構（NATO）主体の国際治安支援部隊（ISAF）が全土に展開しているが、治安は再び悪化している。</p>		
5日夕	<p>2 カリルザード駐イラク大使 国連大使指名の見込み 米紙報道</p> <p>CNNなど複数の米メディアは4日、ブッシュ米大統領が、保守派のボルトン氏が退任した国連大使ポストに、カリルザード駐イラク大使を近く指名する見込みだと報じた。カリルザード氏はアフガニスタン生まれで、米国のアフガニスタン大使からイラク大使に転じた。イラク大使の後任にはクロッカー駐パキスタン大使があてられる見通し。指名された場合、いずれも上院の承認が必要となる。</p> <p>前日に明るみに出たネグロポンテ国家情報長官の國務副長官への横滑り人事も合わせて、大統領がらい来週にも発表するイラク新戦略の実行に向けて、新たな陣容を整える意図があるとみられる。</p> <p>一方、ABCテレビによると、イラクとアフガニスタンを含む中東地域を統括する米中央軍のアビゼイド司令官が今春にも引退するのに伴う新司令官として、ファロン太平洋司令官が指名される方向だという。</p>	ワシントン＝梅原季哉	

2007年  
1月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
		<p>また、イラク駐留米軍のケーシー司令官もアブゼイド司令官と前後して離任する。この後任には、イラク治安部隊の育成任務などを担当してきたペトラエウス陸軍中將が選ばれる見込みだという。</p>	
9日朝	<p>4 &lt;平和をつくる &gt; 子らの希望託す映画 義足の国連職員、アフガン難民支援で制作</p>	<p>(安東建)</p> <p>シャファク・パベイさん</p> <p>砂漠を走る一本の線路。廃材でつくったたこが揚がる。広大な砂漠がアフガニスタン難民の子供たちの遊び場だ。砂に次々と絵を描き、将来の夢を語る子供の映像が詩のように連なる。</p> <p>「どこに行っても空は私のもの」</p> <p>子供たちのつぶやく言葉を題名にした短編映画が、昨年6月20日の「世界難民の日」にテヘラン市内で上映された。</p> <p>舞台はテヘランから南へ約100<sup>km</sup>の町サベ郊外につくられた難民キャンプ。旧ソ連軍のアフガン侵攻で難民となり20年以上もイランで暮らす人もいる。約3800人のうち5歳から17歳が2500人。このキャンプで生まれた子供も多い。</p> <p>制作したのは国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）広報官のトルコ人女性シャファク・パベイ（30）。テヘラン勤務約1年半になる。</p> <p>映画づくりは広報官としての仕事ではない。自ら脚本を書き、UNHCRとイランの非政府組織から計1万2千ドルの資金を調達。キャンプを管理するイラン当局と掛け合い、撮影にこぎつけた。</p> <p>他人の前では本音を語らない子供たち。援助で建てられた学校の教室をスタジオにして1人ずつ語りかけ、心の中を映し出した。</p> <p>アンカラの大学を卒業後、スイスで映画制作や映像ジャーナリズムを学んだ。</p> <p>97年、チューリヒ駅でのことだ。車いすの友人を列車に乗せようとしたとき、突然列車が動き、ホーム下に転落した。左腕と左足を失った。</p> <p>治療のために移ったロンドンで、民族問題をテーマに大学院の博士課程に通った。義足ができるまで、母が車いすを教室まで押してくれた。</p> <p>04年にUNHCRに採用され、ジュネーブの本部から派遣されたアルジェリア、エジプトでも難民の子供たちの記録映画をつくった。難民支援の「本職」と映画は自分の中で切り離せないのだ。</p> <p>米軍の攻撃でアフガンのタリバーン政権が崩壊した後の02年以降、イランから約150万人がアフガンに戻った。だが、国内には住む家や十分な仕事がなく、昨年来のタリバーン勢力巻き返しによる治安悪化も加わり、帰還の波はとまった。</p> <p>サベの子供たちも、祖国の空を見る機会はまだない。それでも崩壊した国の再建は、次世代の子供らが担うしかない。</p> <p>大人になったら何になる？ 映画で少年が答える。「心臓病を治す医者になる」。どうして？ 「アフガン人の心は戦争で壊されたから」</p> <p>映画はDVDで販売され、売り上げは難民に寄付される。国内避難民なども含め、世界に900万人いる難民の子供らに教育とスポーツの機会を与えようとUNHCRが企業の支援で開設したウェブサイト「ninemillion.or</p>	

2007年  
1月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>g」でも配信されることになり、ウェブ版の編集作業もまもなく終える。            難民支援には先進国の援助が頼りだけに、外交官の難民キャンプ視察に同行しイラン国内を飛び回る。空港で、義手、義足が金属探知器に引っかかり、その度に警備担当者と口論しながらも。            20年に及ぶ難民問題はもちろん、一本の映画あるいは一人の力で解決できるわけではない。だが、個々の小さな営みがなければ解決はさらに遠くなると思う。            事故後30回以上も手術が続いた。苦しいと思ったのはそのときだけだ。            「難民の子が希望を持って生きていけるなら、私は疲れなど感じない」            = 文中敬称略</p> <p>イランの難民            79年の旧ソ連のアフガン侵攻から湾岸戦争、イラク戦争に至る長い混乱で、東西の隣国から、最大時450万人もの難民が流入。現在もアフガン難民約94万人、イラク難民5万4千人が残る。アフガン難民の9割は、テヘランなど大都市に住み、低賃金労働に従事し、教育や医療も十分受けられない厳しい環境にある。</p> <p>&lt;写真&gt;映画に出演したアフガン難民の子供たちと再開したシャファクさん＝イラン中部サベ郊外の難民キャンプで、安東写す</p>		
12日朝	<p>7 &lt;地球24時&gt;            アフガン駐留部隊 武装勢力を多数掃討 (イスラマバード)</p> <p>アフガニスタンに駐留する国際治安支援部隊 (ISAF) は11日、東部パクティア州で武装勢力の掃討作戦を実施し、約150人を殺害したと発表した。            ISAF報道官によると10日夜、同州バルマル地区で、二手に分かれた武装勢力がパキスタン側から国境の山岳地帯を越えたのを確認。アフガン国軍と合同で攻撃した。            一方、AFP通信はアフガン国防省の話として死者を約80人と伝えるなど情報は混乱している。</p>		
12日夕	<p>2 ビンラディン逃亡手助けか            アフガン元首相語る</p> <p>アフガニスタンで反米闘争を続けるヘクマチアル元首相が、パキスタンの民間テレビ「CEO」とのインタビューに応じ、国際テロ組織アルカイダのビンラディン容疑者について、5年前に自らの勢力が安全な場所にかくまったと語った。            11日に訪英のインタビューで元首相は「米軍の侵略が始まった直後、ビンラディンと(アルカイダのナンバー2)ザワヒリと面会した。彼らは私の兵士によって安全な場所にかくまわれていた」と語った。元首相は「それ以降会ったことはない。我々はアルカイダと何の関係もない」とした。</p>	イスラマバード＝北川学	

2007年  
1月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
13日朝	3	安部首相 「NATOと連携強化」 アフガン復興を支援	ブリュッセル = 鯨岡仁
		<p>ベルギー訪問中の安部首相は12日、北大西洋条約機構（NATO）の理事会で演説し、「憲法の諸原則を遵守しつつ、いまや日本人は自衛隊が海外で活動することをためらわない」と述べ、恒久法制定も含め、自衛隊の海外派遣を積極的に進める意向を表明した。（中略）</p> <p>日本の首相のNATO訪問は初めて。（中略） NATOが進めるアフガニスタン復興支援活動に対する人道分野での協力関係を強化する姿勢を示した。 具体的には、初等教育や医療、衛生などの分野でNATOがアフガンで展開する軍民共同型の「地域復興チーム」（PRT）に人的貢献する意向を示唆した。NATOはアフガンで400人以上の死者を出している一方、現在の日本政府のPRTに対する支援は財政支援にとどまっている。（以下略）</p>	
	7	<写真>冬の熱闘	
		12日、アフガニスタンの冬の風物詩であるカーブルの闘犬で、犬を引き離そうとする飼い主 = AP	
	9	<特派員メモ カーブル>	（北川学）
		<p>外務省での用事を終えて助手と外に出ると、路上に止めておいた車がない。</p> <p>カーブルの都心で違法駐車を取り締まりが始まったらしいと聞いていたが、単なるうわさだと高をくくっていた。</p> <p>「本当だったんだ・・・」。2人でぼうぜんとした。</p> <p>保管所に駆けつけると、撤去された乗用車や四輪駆動車が50台ほど並んでいた。係の警察官は、撤去は昨年10月から新たに始まったと言う。車は保管所に24時間留め置かれた後、反則金1600アフガニ（約4千円）を払えば返還される仕組みだという。</p> <p>アフガニスタンでも、ルールを作って、みんなに守らせようという意識が芽生えてきたか。20年以上も無秩序の戦乱にさいなまれたこの国の現代史を思うと、すこしうれしい気持ちになった。</p> <p>話のついでに「みんなおとなしく反則金を払うのか」と聞いたら、「半々だ」と警察官は渋い顔をする。政治家などとコネがある人物は、権力を笠に強引に車を持ち去ることもあるという。警察幹部に電話し、車を家まで届けさせる者までいるようだ。</p> <p>そう聞いて、うれしい気持ちが吹き飛んだ。制度を設けて「はい、よかったね」で済まないのは世の常とはいえ、この国のややこしさをあらためて見た気がした。</p>	
13日朝	36	<番組> 「ETV特集 「アフガン戦争」米ソ介入・秘められた真実 KGB・CIAの秘密」	

2007年  
1月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>大統領暗殺作戦 ビンラディンの始動 ゴルバチョフの苦悩 初公開資料 NHK教育テレビ PM10:00-11:30</p>		
<p>17日朝</p>	<p>7 &lt;地球24時&gt; アルカイダの隠れ家 パキスタン軍が攻撃 (イスラマバード)</p> <p>パキスタン軍は16日朝、アフガニスタン国境沿いの部族地域・南ワジリスタン地区で、国際テロ組織アルカイダの隠れ家とされる場所をミサイル攻撃したと発表した。隠れ家には25~30人のメンバーが潜伏していたとされ、軍報道官は「ほとんど死亡した」としている。 死者の中には外国人も含まれているが、ビンラディン容疑者や幹部クラスはいない模様だ。部族地域は、アフガンに越境テロを仕掛ける武装勢力の潜伏拠点とされている。</p>		
<p>18日朝</p>	<p>7 パキスタン 対テロ 国境に地雷構想 イスラマバード = 北川学 アフガン・国連は反発</p> <p>越境テロ対策の不備をアフガニスタンから強く批判されてきたパキスタン政府が、国境沿いに地雷を敷設するという過激な構想を明らかにして波紋が広がっている。アフガンでは抗議デモが続き、国連も懸念を表明。アフガンへ流れる武装勢力を抑える「切り札」としての地雷が、かえって国際社会の反発を買ってしまった。</p> <p>パキスタンのリアズ外務次官は昨年末、一部の国境線沿いに地雷を敷設し、フェンスを設ける構想を進めると発表した。場所や時期については明らかにしていない。</p> <p>アフガンのカルザイ大統領は、越境テロを容認しているとパキスタンを激しい口調で非難してきた。パキスタンは05年にフェンス設置の構想を出したが、地雷をセットにして提案し直した形だ。</p> <p>アフガンでは内戦時代に埋められた地雷で、いまでも毎月数百人が死傷している。地雷構想に対し、クリス・アレクサンダー国連事務総長特別副代表は「地雷は住民への脅威となる」と憂慮。カルザイ大統領も「テロ根絶には武装勢力の訓練キャンプ壊滅が有力だ」と、構想を批判した。</p> <p>国境地帯のパキスタン側にある部族地域は武装勢力の「聖域」とされ、最近もアフガン駐留の国際治安支援部隊 ( I S A F ) が約150人の越境を確認、掃討した。</p> <p>「デュランド・ライン」と呼ばれる国境線には境を示す印はほとんどないとされ、住民は地元当局の通行証で行き来できる。一部に地雷を埋めても抜け道は多く効果は疑わしいうえ、住民にとっては商売や親族訪問に支障が出る。特にパシュトゥン人はアフガンで44%を占める最大民族。同族のカルザイ大統領にとって「身内」の不評を買う構想は容認できない。</p> <p>国境線は約2400*にも及び、険しい山岳地帯を通る。実際に工事するとするとパキスタンの負担も大きい。「アフガンの批判をかわすためのポーズ」(パキスタン人記者)との冷めた見方が専らだ。</p> <p>アフガンでは構想を批判する住民の抗議デモが相次ぎ、パキスタン国旗を燃やすなどしている。パキスタン側でも16日、野党や市民団体が集会を開いて構想を批判。政府に対人地雷禁止条約 ( オタワ条約 ) への加盟を促</p>		

2007年  
1月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>す宣言を採択した。 両国に割って入ったのがカナダのマッケイ外相。9日にパキスタンのカスリ外相と会談。地雷構想に反対する意向を示したうえで国境対策の専門家の派遣などを約束した。同外相もカナダの提案を歓迎し、「よく考慮したうえで最終決定したい」と述べた。</p> <p>デュランド・ライン 1893年、英領インドとアフガンの間に引かれた国境線。ただ、協定の締結では英国側の強要があったとされ、歴代のアフガン政権は正式な国境と認めていない。パシュトゥン人の居住区域を分断する形で引かれている。47年にパキスタンが成立すると、同民族の間で独立の気運が強まった。</p> <p>&lt;写真&gt;パキスタンとアフガニスタンの国境近くで11日、パキスタンによる国境管理に反対し、人々に演説するパシュトゥン人の長老 = A P</p>		
18日朝	7	<p>タリバーンの報道官を逮捕 アフガン当局</p> <p>(イスラマバード)</p> <p>アフガニスタン治安当局は16日、旧政権タリバーン勢力のハニフ報道官を逮捕したと明らかにした。同報道官は15日、東部国境の町トルカムでパキスタン側から越境したところを、事前に情報を得て張り込んでいた治安当局者に見つかった。 タリバーンには「報道官」を名乗る人物が複数おり、衛星電話で国内外のメディアに接触。自爆テロの犯行声明などを伝えている。</p>	
19日朝	7	<p>「オマール師はパキスタンに」 逮捕のタリバーン報道官</p> <p>イスラマバード = 北川学</p> <p>アフガニスタン治安当局は17日、逮捕された旧政権タリバーンのハニフ報道官の取り調べを撮影したビデオを報道陣に公開した。このなかで同報道官は、タリバーン指導者オマール師が「(パキスタン南西部)クエッタで、同国の情報機関の保護下で暮らしている」と述べた。 また、国境地帯のパキスタン側にあるマドラサ(イスラム神学校)では「退役したパキスタン情報機関トップの支援で、若者たちが自爆テロ訓練を受けている」とも語ったが、これらの供述についてパキスタンのシェルパオ内相は「全くのでたらめ」と否定した。 オマール師は01年12月の旧政権崩壊後、行方が分かっていない。</p>	
22日朝	40	<p>&lt;番組&gt; 世界史「アフガニスタン」</p> <p>NHK教育テレビ 15:30-16:00</p>	
23日朝	9	<p>&lt;亜州見聞&gt; 映画に怒りのアフガン</p> <p>[カーブル]アフガニスタン・ダンクンディ州で今月上旬、同国とインドの合作映画に抗議する住民デモがあり、数百人が制作者や出演者の処罰を求めた。</p>	

2007年  
1月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>問題の映画は「カブール・エクスプレス」。01年10月の米軍による空爆から旧タリバーン政権崩壊までを描いた。一般上映はまだだが、登場するハザラ人に「盗っ人」「野蛮人」と品のない言葉を投げかける場面が、試写会を見た人たちの怒りを買った。</p> <p>内戦が終わったアフガンでは国民和解の努力が進む。ある国会議員は「不幸な過去の記憶を呼び起こす。絶対に容認できない」と話した。</p> <p>(パジュワク・アフガン通信など)</p>		
1月27日	7	米、アフガン2500人増派  北大西洋条約機構(NATO)の非公式外相理事会が26日、ブリュッセルで開かれ、ライス米務長官がアフガニスタンに米軍を約2500人増派する考えを示した。	(岸善樹)

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
1日夕	12 <会と催し> 講演+対談「カンボジア、アフガンから考える復興と平和」 7日午後6時半、東京・西早稲田の早稲田奉仕園。谷山博史氏と金子敦郎氏。500円。大竹財団(03-3272-3900)		
3日朝	7 伊政権、頭痛のアフガン 軍駐留延長予算めぐり 撤退要求 与党内にも	ローマ = 喜田尚	

アフガニスタンに派遣する軍の駐留をめぐり、イタリアのプロディ政権が苦境に立たされている。与党・中道左派連合内の一部最左派グループが撤退を求め、駐留軍の予算延長に反対。政権崩壊につながりかねない造反投票をちらつかせている。世論調査でも撤退支持が優勢。アフガンで雪解けとともに予想される武装勢力の攻勢を前に、政権は「イタリア軍の駐留は平和的関与」と強調せざるを得ない状況だ。

イタリア軍は現在、北大西洋条約機構（NATO）指揮下の国際治安支援部隊（ISAF）に約1900人を派遣。カーブルや西部ヘラートに展開している。これまでに兵士8人が死亡した。

現在の駐留予算は昨年7月からの半年分しかなく、すでに期限切れの状態。予算更新について早急に上下両院の承認を得る必要があるが、上院での与野党の差はわずか2議席しかなく、身内の造反はたとえ少数でも死活問題だ。

政府は先月末、深夜に及び閣議を開いて議会に提出する予算更新案を決めたが、駐留軍撤退を求めるイタリア共産主義者党、緑の党など最左派グループ3党の閣僚は出席しなかった。

政権発足間もない昨年7月にも同様の事態に追い込まれたが、議会では承認か内閣総辞職かを同時に問う信任投票に持ち込んで造反を押さえ込んだ。

ただ、このときはなんとかと矛を収めた最左派議員も、今回は「将来の撤退」に向けた何らかの意思表示がなければ予算承認に反対票を投じると主張している。

政権内には、アフガン駐留に賛成している野党の中道右派と強調してでも予算承認をはかるべきだとの声もある。ただ、その場合は政権の存在意義が問われることになる。

イタリアは今春、自国でアフガン復興をめぐる国際会議開催を計画しており、2月にはカルザイ大統領の訪問も予定されている。

プロディ首相は先月下旬、撤退を求める与党3党の代表と会談。ANSA通信によると、緑の党代表は「首相は『出口戦略』を持つべきだ」と語った。

だが、首相はその後も「アフガニスタンの平和と安定の再構築に加わる義務がある」と語るなど、最左派グループの主張を退けている。

一方でNATOが求める部隊増強も否定。NATOには加盟国に戦闘の激しい南部への部隊展開を求める動きもあるが、首相としては、駐留部隊の数でも展開場所でも「現状維持」を強調せざるを得ない。

「レプリカ」紙が先月24日に報じた世論調査では、56%が自国駐留軍の撤退に賛成、中道左派の支持者の間では64%にもなった。

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
3日朝	<p>7 「武力だけでは成果上がらず」 ダレーマ副首相兼外相が会見</p> <p>来日中のイタリアのダレーマ副首相兼外相は2日、東京都内で朝日新聞などと会見し、旧政権タリバーンの攻勢が強まるアフガニスタンについて、現行の治安維持のやり方では限界があるとの見方を示した。アフガンにはイタリアを含む国際部隊が展開中だが、相次ぐ兵士の犠牲に伊国内でも撤退論が強まっており、新たな枠組みで復興支援を行う必要性を強調した。</p> <p>ダレーマ氏は「武力介入だけでは、期待した成果がまったくあがっていない」と、アフガンの現状に強い懸念を表した。政治、経済、人道支援など、軍事力以外の復興策を強化する必要性を強調。イタリアでの国際会議開催に意欲を示した。アフガン支援では、ベルリンでも支援国による国際会議が開かれているが、麻薬撲滅をめざす国際機関との連携など、「復興に向けたあらゆる取り組みを統合」して、新たな枠組み作りを目指すという。</p> <p>同氏はまた、中東全体やイラクの安定のために「欧州の役割を重視している」と述べ、米国寄りだった中道右派のベルルスコーニ前政権との違いを見せた。中道左派のプロディ現政権が欧州寄りの姿勢をとり、反米的になったとの指摘には「我々は米国民の7割と同じ考えだ」とし、ブッシュ政権から民心が放れていると指摘した。</p> <p>ダレーマ氏は「プロディ首相が4月に来日する」と明かしたうえで、「ここ数年の遅れを挽回した」と、日伊関係の強化を強調。外交レベルで年次協議の枠組みを設けることで合意し、北朝鮮の核問題など国際的な課題に協力して取り組むとの姿勢を示した。(吉武祐)</p>		
5日朝	<p>4 タリバーンの司令官を殺害 治安支援部隊</p> <p>アフガニスタンに駐留する国際治安支援部隊（ISAF）は4日、南部ヘルマンド州ムサカラ地区で、旧政権タリバーン勢力のガフル司令官を殺害したと発表した。同地区では昨年10月にISAFとタリバーンの停戦が実現したが、この司令官が率いる武装勢力が今月1日夜に襲撃を再開し、停戦合意が崩れていた。</p> <p>ISAFによると4日朝、ムサカラ地区の近郊で司令官の車を空爆。車に積んであった大量の弾薬が爆発したが、民間人の死傷者はいない、としている。</p> <p>同地区では1日夜、約300人のタリバーン武装勢力が中心部の警察署や行政機関を襲撃。国旗を引きずり降ろし、地元の長老らを数時間にわたって人質に取った。ISAFやアフガン国防省はタリバーンへの攻撃を予告していた。</p>	カーブル = 北川学	
8日朝	<p>9 子ども兵解放 宣言採択 58ヵ国政府 世界で25万人の推計</p> <p>アフリカやアジアなどの戦場で利用される子ども兵の問題を討議する国際会議「戦争の子を救え」が5、6両日、パリで開かれた。問題が深刻な</p>	パリ = 国末憲人	

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>スーダンやウガンダ、今後などを含む58カ国政府が参加し、子ども兵の解放をうたった共同宣言「パリ規約」を採択した。</p> <p>パリ規約は、戦争で18歳以下を兵士にするのを防ぐため、国際法に基づく責任者の訴迫などの手段を講じる必要があることを確認した。(以下略)</p> <p>&lt; 社会復帰プログラムの実施状況 &gt; (単位: 人 = 98年以降に救出され、参加した数) 終了した国 アフガニスタン 4000 * ユニセフなどの資料から</p>		
6日朝	<p>6 ベールどこまで隠す? カイロ = 貫洞欣寛 コーラン「美しいところは人に見せぬよう」 エジプト 大学の禁止令で論争</p> <p>(前略) アフガニスタンの「ブルカ」と呼ばれるベールは、頭からすっぽりとかぶって顔全体を覆う。外からは視線も分からない。(以下略)</p>		
7日朝	<p>15 &lt; 世界の窓 from ハンブルク &gt; アフガンの「泥沼化」を懸念</p> <p>テオ・ゾンマー (独ツァイト紙元編集主幹)</p> <p>中東が燃えている。米国はイラクの泥沼にはまりこんだ。パレスチナでは、ハマスとファタハの兄弟げんかがアラブとイスラエルの和平プロセス再始動の試みを台無しにしている。内戦の瀬戸際のレバノン。そして、アフガニスタンにはイスラム原理主義のタリバーンが戻り、戦闘が増えている。もう半年以上、北大西洋条約機構(NATO)は部隊の増強を加盟国に求めてきたが、ドイツをはじめどこでも、人びとは耳をふさいでいる。</p> <p>北部に3千人の兵士を送り込んでいるドイツの軍事支援は、アフガンでは今や世界第3位の規模だ。西はトルクメニスタンから、東は中国国境まで展開するドイツ連邦軍の地域再建チームはよい仕事をしている。これがアフガン北部が比較的穏やかである理由のひとつなのは間違いないが、最近では事件や攻撃が増え、懸念が高まっている。</p> <p>メルケル首相は、アフガン南部や東部で、友邦部隊からの緊急要請があればもちろん応えたい、と繰り返し語ってきた。だが今のところ、パキスタン国境に沿った展開地域での戦闘行動は強く拒んでいる。</p> <p>首相は、タリバーン武装勢力を追尾するドイツ軍の偵察用トーンード6機の派遣には乗り気だ。だがそんな限られた貢献でも、連立政権の与党両党から強い疑念が出されているのだ。</p> <p>第一にアフガンがイラクのようになるのではないかという強い不安がある。もちろん両者には顕著な相違があるが、類似点も多い。外部勢力の支援、弱い中央政府と底なしの腐敗。メソポタミアのスニ派とシーアの宗教的敵意と同じくらい紛争につながりやすい部族対立。そしてアフガンでは、ケシ栽培と麻薬取引をつかさどる軍閥たちがカルザイ政権を首都カーブルに閉じこめている。</p> <p>第二に、国際社会の約束と現実に大きな隔たりがある。アフガン国民に治安と繁栄を保障せねばならないという理解はあるが、ほとんどの支援活動は軍事力に支えられている。ヘロイン生産に代わる経済活動や社会的投資は軽視され、民政活動には軍事費のわずか10分の1の資金しかまわって</p>		

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>いない。</p> <p>調整不足で援助活動は機能しない。国連、NATO、国際治安支援部隊（ISAF）、それに無数の援助機関が協力するよりじゃまをしあっている。</p> <p>第三に、欧州人の多くが、自国の兵士が活動する作戦に発言権がないと感じているので、部隊増強の要請に戸惑っているのだ。米国が好む大規模な航空攻撃は、住民の心をつかむ効果はない。爆撃は常に一般市民の巻き添え被害を伴うが、結婚式で爆撃を受けたり、遊牧民が機銃掃射を受けたりすれば、友好的なアフガン人の信頼を失うのは当たり前ではないか。</p> <p>NATO地上部隊の増強を求める空気は高まっている。しかし、西側がアフガンにおける冒険で何を最終的な目標にするかはっきりさせない限り、理解を得にくいだろう。アフガン派遣は、もともとはここをアルカイダの隠れ家や西側攻撃の集結地にすることを防ぐためだったのか。または、タリバーンが権力に返り咲くことを未然に防ぎ、オサマ・ビンラディンの配下たちに安全地帯を与えることを防ぐためだったのか。その場合世界中をパトロールして外国に徒を押しつけるのが本当に西側の仕事だろうか。</p> <p>ある安全保障の専門家が問うている。「アフガンの少女たちが学校に行けるようにするために、自国の兵士を危険な場所に送るべきだろうか」と。これは、熟考すべき問題である。</p> <p>もうひとつ重要な疑問がある。われわれの兵士たちは次のクリスマスまでに帰国できると思いをしているのではないか。仕事は短い期間に終わりそうにない。一世代の半分の15年くらい、アフガニスタンにとどまる決意と粘り強さが、われわれにあるだろうか。</p> <p>（英文は8日付ヘラルド朝日に掲載します）</p>		
9日朝	<p>7 NATO アフガン増派へ 米英中心 消極国と溝も</p> <p>北大西洋条約機構（NATO）は8、9両日にセベリアで非公式国防相理事会を開き、アフガニスタンでの兵力増強を申し合わせる。旧政権タリバーン勢力の抵抗が続く南部での増強が目的だが、今回も米軍と英軍頼みになると見られ、増派に消極的な国との溝が広がる可能性もある。</p> <p>NATOはアフガンで国際治安支援部隊（ISAF）約3万3千人を指揮している。これまでに米国は、一部の部隊の撤退時期を遅らせることで、2500人規模の増強を明らかにした。英国は首都カブルの約500人が撤退する代わりに、南部に約800人を派遣すると発表した。ポーランドも兵力増強を表明している。</p> <p>南部ではタリバーン勢力の抵抗が予想以上に強い。今後、雪解けとともに戦闘はさらに激化するとみられ、国防相理事会で兵力増強を含め対応策を話し合う。NATOのデホープスヘッド事務総長は再三にわたり、加盟国に貢献を求めている。</p> <p>これを受けてドイツは7日、トルネード戦闘機6機と要員約500人の派遣</p>	セベリア（スペイン南部）= 岸善樹	

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>を表明。ただ議会の反対が予想されるため、ユング国防相は「戦闘行為には加わらない」と表明し、任務は偵察などに限定されるとみられる。</p> <p>フランスやスペイン、イタリア、トルコなどは国内の反対が強いこともあり、アフガン増派には消極的だ。このためNATOのホルストン事務次長は「国防相理事会で増派の申し出があれば歓迎だ。だが各国の貢献を細かに詰めることが目的ではない」と話し、加盟国間の溝の広がりに警戒感を示した。</p> <p>タリバーン再攻勢 雪解け迎え、南部で活発</p> <p>カーブル = 北川学</p> <p>アフガニスタンでは雪解けの季節を控え、旧政権タリバーンの攻勢が強まっている。ISAFとの停戦が実現した南部の村を再び襲撃して存在感を誇示。多数の自爆テロ要員が配置についたと主張しており、治安のさらなる悪化が懸念されている。</p> <p>1日夜、約300人のタリバーン兵が南部ヘルマンド州ムサカラ地区の行政機関を襲撃、事実上の支配下に置いた。地元テレビによると数千人の住民が近郊の砂漠地帯に避難した。</p> <p>人口約5万人の同地区では昨年、ISAFとタリバーンの激しい戦闘の末、地元長老の仲介で停戦合意が実現。しかしタリバーンが合意を破る形となった。ISAFは4日、同地区のタリバーン司令官を殺害した。</p> <p>地元記者によると、同地区の近くにはISAFとアフガン軍計約5千人が集結、掃討作成の準備を整えた。ただ、民間人に犠牲者を出せば、反感を強めた住民が逆にタリバーンに加勢しかねず、下手に手出しできない状態だ。</p> <p>7日には南部カンダハル州でISAFの車列を狙った自爆テロがあり、自爆犯1人が死んだ。6日にも東部ナンガハル州で、警官3人が仕掛け爆弾の犠牲になるなど、連日のようにタリバーンの攻撃が起きている。</p> <p>「南部各州に30人ずつが潜伏し、攻撃命令が下るのを待っている」。タリバーンの地方司令官は朝日新聞に明かした。</p> <p>アフガンでは毎年、春先からタリバーンの攻勢が活発になる。冬ごもりをしていたパキスタン国境の山岳地帯が雪解けを迎え、行動しやすくなるためだ。昨年は攻撃が頻発し、民間人を含めて約4千人が死亡、01年のタリバーン政権崩壊後で最も多い犠牲者を出した。</p> <p>ISAF報道官は7日の記者会見で、「今年は自爆テロなどゲリラ攻撃がさらに多発する可能性がある」と語った。</p> <p>&lt;写真&gt;ヘルマンド州の難民キャンプで8日、ムサカラを逃れてきた子どもたちがたき火で暖をとっていた = ロイター</p>		
10日朝	<p>アフガン増派 各国の溝、埋まらず NATO理事会 仏独は依然慎重</p> <p>セビリア (スペイン南部) = 岸善樹</p> <p>アフガニスタンへの部隊増派をめぐり、セビリアで8日開かれた北大西洋条約機構(NATO)の非公式国防相理事会で、加盟国間の溝が鮮明になった。米英主導で一定の増強は実現するが、フランスなどは消極姿勢を崩さなかった。</p>		

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>初参加のゲーツ米国防長官は記者会見で「各国が約束した兵力を送るのは当然だ」と述べ、派兵実績が当初計画に達していない国に対し、約束の実行を求めた。</p> <p>米国は約2500人規模の増強を表明し、英国も約800人をタリバーン勢力の抵抗が激しいアフガン南部に派遣することを発表した。デンマークやリトアニアも増派に積極的な考えを示した。</p> <p>一方、AFP通信によると、フランスのアリオマリ国防省は「NATOが何の目的でアフガンへの兵力を増強するのか、厳密に議論する必要がある」と述べ、増派への慎重姿勢を改めて示した。</p> <p>トルネード戦闘機6機のアフガン配備を表明したドイツのユング国防相も「かつて旧ソ連は10万人規模の兵力をアフガンに送り込んだが、勝てなかった」と話し、部隊増強だけでは事態が好転しないとの考えを強調した。</p> <p>アフガンでは現在、NATOが国際治安支援部隊（ISAF）の約3万3千人を指揮している。</p>		
15日朝	<p>7 「右 左」ハンドル交換業 アフガンに専門会社 右側通行・・・中古日本車増え危険に</p> <p>01年末のタリバーン政権崩壊後、中古日本車の輸入が増えているアフガンニスタンで、右ハンドルを左に付け替える専門会社が現れた。アフガンでは右側通行のため、右ハンドルでは交通事故の危険が高まることに目を付けた「目標は改造30万台」と意気込む。</p> <p>町工場が集まるカーブル東部プルチャルキ地区。ワゴン車を中心に約20台が並ぶ作業場で、約100人が働いている。ハンドル付け替え会社シャヒン・テクニカルだ。</p> <p>シートを外して空間を作り、ハンドルやアクセル、ブレーキを右から左に替える。作業は4日以内に完了する。</p> <p>社長のジャムシド・コハンさん（46）は内戦などのため、27年間イランに逃れ、車の整備業を営んでいた。02年の帰国直後、</p> <p>02年の帰国直後、右ハンドル車の事故を見て、「ハンドル改造会社を設立し、国の再建を助けたい」と思った。</p> <p>昨年3月、ようやく開業。「一つ一つの手続きにわいろを要求された。書類の署名一つだけで8ヵ月も待ったことがある」。改造代金は600ドル（約7万2千円）から800ドル。これまでに600台改造した。</p> <p>内務省カーブル交通部によると、カーブル市内の車は50万台。アラブ首長国連邦のドバイ経由の輸入中古日本車が多い。車は増えるが道路は拡張されないため、危険は増している。</p> <p>政府は04に右ハンドル車の輸入を全面禁止。ドバイで左ハンドルに改造されてくる車も増えたが、コハンさんは今も30万台と推定し、「全軍のハンドルを替えると意欲を見せる。</p> <p>輸入改造車には、ハンドル操作がロックするなどの問題が発生し、政府は昨年、ハンドル改造車の輸入を禁止、ノールディーン交通部長はコハンさんの改造車の安全性も心配する。コハンさんは「問題が起きれば、国内</p>	カーブル＝小暮哲夫	

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>ではやっていけない。安全には自信がある」と話している。</p> <p>&lt;写真&gt;左ハンドルへの改造作業。すでにブレーキやギア、ダッシュボードは付け替えられている。=ケーブルで小書きす</p>		
16日朝	<p>4 アフガン支援 首相積極発言 PRT参加 探る政府 自衛隊派遣 一般法を視野 武器使用に憲法の制約</p> <p>旧タリバーン政権崩壊後のアフガニスタン復興にあたっている軍民一体型の「地域復興支援チーム」(PRT)への自衛隊参加に、安部外相が意欲を示したことを受け、政府はPRT参加も含めた自衛隊の海外活動に関する一般法制定の可能性を探り始めた。しかし、アフガンの治安情勢は泥沼化しているうえ、武器使用を前提にしたPRTへの参加には憲法上の制約が大きい。一般法論議の活性化を狙う首相の言葉が国際公約として独り歩きしかねない状況だ。</p> <p>首相が1月にブリュッセルの北大西洋条約機構(NATO)理事会で行った演説は、外務省案をもとに谷内正太郎外務次官と最終調整した。首相は「自衛隊による海外での活動をためらわない」と表明したうえで、NATOによるアフガンでのPRTを評価。さらに、演説後の記者会見で「NATOとPRTの人道・開発支援分野で連携協力をしていくことで意見が一致した」と強調し、直接言及はしなかったものの自衛隊のPRT参加への意欲をにじませた。</p> <p>アフガンでの治安維持活動は、多くの国の参加を募るため少数部隊でも活動できるPRTを活用。アフガンの武装解除などを担う日本政府特別顧問を務めた伊勢崎賢治・東京外大教授は「現地レベルでは、米軍の将校から日本大使館に、再三にわたって『日本の自衛隊もPRTに参加して欲しい』という希望があった」と明かす。</p> <p>しかし、日本の場合、自衛隊の警護活動は現行では認められていない。そこで政府内では、自衛隊の海外派遣について新たに包括基準を定める一般法でのPRT参加について検討を始めた。</p> <p>首相は、以前から一般法制定に積極的だ。9日の衆院予算委員会では、警護活動を含む一般法の自民党素案をまとめた石破茂・元防衛庁長官の質問に対して「与党における議論を含め、国民的な議論の深まりを踏まえ検討をしたい」と答えた。内閣官房幹部は、首相が官房長官時代に「PRT」は一般法論議の引き金になる」と漏らしたのを聞いている。首相がPRTへの参加を示唆したのは、日米同盟の強化と同時に、一般法提出に向けた「国民的議論」を喚起する狙いもあるようだ。</p> <p>ただ、政府の憲法解釈では、自衛隊による武力行使は「国または国に準じる者」による武力攻撃から日本を防衛する場合に限られる。海外活動中の武器使用は、「自己」と同じ現場にいる人を守る場合のみに制約してきた。</p> <p>PRTでは、離れた場所にいるNGO(非政府組織)の民間人や自衛隊の同僚なども防護対策になる。さらに武力行使と一線を画すため、「国」との交戦が起きないように活動区域をより明確にすることも求められる。内閣法制局と調整したうえで「自衛隊による警護活動は灰色か黒(違憲)の</p>	<p>鯨岡仁、藤田直央</p>	

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>おそれがある」との結論を出した。</p> <p>国際公約化 懸念も</p> <p>一方、アフガンに約3万2千人の部隊を投入しているNATOは、400人以上の死者を出している。治安情勢は泥沼化しており、各国が引き際を模索しているのが現状だ。とりわけNATOが各国に派遣を要請している地域、治安悪化が著しい南部が中心。伊勢崎氏は「今からPRTに關与するのは最悪のタイミングだ」と指摘する。</p> <p>低い住民の評価 必要性精査せよ</p> <p>アフガンの武装解除にかかわり、PRTに關する現地調査をした東京外大の今井千尋研究員の話 首相の演説を聞いたPRT参加国の関係者が「日本はいつPRTに参加するのか」と問い合わせてくるなど、アフガン情勢に苦しむNATO諸国の期待は高まっている。しかし、住民のPRTに対する評価は思ったより低く、現地のNGOからは「銃を持って軍服を着て住民との信頼醸成ができるのか」との疑問も出ている。なぜ、日本がいまPRTに關与する必要があるのか精査すべきだ。</p> <p>&lt;図&gt; PRTの活動のイメージ</p> <p>&lt;キーワード&gt; 地域復興支援チーム (PRT) 米国が03年からアフガンで始め、イラクでも展開している軍民一体型の合同チーム。NGOなどが学校建設などの復興支援活動を行う。軍人は主に警護役。通常、60~250人を一単位として活動しており、治安の悪い地域に自国の国旗を掲げ駐留。国連決議に基づく平和維持活動 (PKO) と異なり、原則として有志国が参加。アフガンでは現在、NATO加盟国を中心に13カ国が主導するPRTが25カ所で展開。うち12地域は米国が担当。</p>		
17日朝	9	<p>新大統領のトルクメニスタン 変わるか個人崇拜</p> <p>イシガバート = 喜田尚 モスクワ = 大野正美</p> <p>中央アジアのトルクメニスタンで徹底的な個人崇拜体制を築き上げ、昨年末に急死したニヤゾフ前大統領の後任に、このほど行われた大統領選でベルドイムハメドフ (49) が選ばれた。(中略)</p> <p>ニヤゾフ政権下で、アフガニスタンを経由しインドに輸出するルートや、カザフスタン経由で中国に輸出するルートなどのパイプライン計画ができた。これには別ルートの可能性でロシアをゆさぶり、ガスの価格交渉を有利にするという駆け引きの要素も強かった。(以下略)</p>	
18日朝	4	<p>&lt;地球24時&gt; パキスタンの地裁 自爆テロ? 15人死亡 (イスラマバード)</p> <p>パキスタン南西部バルチスタン州クエッタの地方裁判所で17日、自爆テロと見られる爆発があり、地元テレビは裁判官と弁護士を含む15人が死亡</p>	

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>したと伝えた。爆発は裁判官執務室の外で起きたという。 同州では反政府組織によるテロが多発、さらにクエッタにはイスラム原理主義タリバーン勢力が多く潜伏している。</p>		
19日朝	32	<番組> 「よみがえるタリバーン」	NHK衛星第1 21:10-22:00
19日夕	2	米軍ヘリの8人墜落死	(イスラマバード)
		<p>アフガニスタン南部ザブール州で18日、駐留米軍の大型ヘリコプターが墜落し、同軍報道官は兵士8人が死亡、14人が負傷したと発表した。飛行中に突然エンジンが故障したとしており、事故とみられる。一方、旧政権タリバーン勢力の報道官を名乗る人物は、地元通信社に対して「我々が撃墜した」と主張している。</p>	
21日朝	9	アフガン難民23万人漂流	ベシャワル(パキスタン北西部) = 北川学 パキスタン 4キャンプ閉鎖へ 「テロの聖域」タリバーン潜伏
		<p>テロリストの温床になると、パキスタン政府は国内にあるアフガニスタン難民キャンプ4カ所を夏までに閉鎖する。そこで暮らす計23万人の難民の中には、キャンプ暮らしで20年を超える人も多く、突然の方針に動揺を隠せない。一方、アフガンを追われたはずのイスラム原理主義勢力タリバーンは、パキスタン側に隠れてアフガンでの大攻勢を予告。両国の国境地帯は不穏な情勢だ。</p> <p>ベシャワル近郊の幹線道路から数キロ入った平野部にあるジャロザイ難民キャンプ。パキスタン最大の約12万人の難民が暮らすキャンプの中を歩くと、男たちに遠巻きに見つめられた。「即刻、立ち去れ。身の安全を保証できないぞ!」治安責任者が記者に言った。</p> <p>タリバーンの内情に詳しい関係者によると、このキャンプにはアフガンでの戦闘に赴くタリバーン兵の家族や関係者が住んでおり、タリバーンの構成員は約4千人にもなる。1月、キャンプ内の民家で数人が死亡する爆発があった。タリバーンを支援する3人の男が爆弾を製造中、事故を起こしたという。</p> <p>ジャロザイ・キャンプができたのは82年。アフガンに侵攻したソ連軍と戦うため、アラブ諸国などから駆けつけた義勇兵に軍事訓練を施す拠点として機能した。</p> <p>ジャロザイを含む国境に近い4カ所の難民キャンプを8月31日までに順次閉鎖する、とパキスタン政府が発表したのは今月7日。アフガン政府と国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)も同意し、23万人の難民は国連の支援で故郷に戻るか、別の難民キャンプに移るかの決断を迫られる。</p> <p>ムシャラフ大統領は「難民キャンプがテロリストの聖域になっている」と強調するが、住む家を失う難民にとっては切実だ。</p> <p>「国に戻りたくても戻れない。」キャンプを移るにしても家を建てる金がない。約5万人が暮らすベシャワル中心部のカチャガリ難民キャンプのファイズさん(75)は困惑する。</p>	

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>ここも閉鎖の対象で、キャンプ内には泥と日干しれんがで造った粗末な民家が軒を連ねる。</p> <p>ファイズさんはアフガン東部の出身。79年12月に侵攻したソ連軍から逃れて以来、27年間ここで暮らす。建設現場などの日雇い仕事で得られる収入は1日100ルピー（約200円）だが、最近は雨続きで仕事がない。</p> <p>旧タリバーン政権が崩壊すると、親族や友人はこぞって故郷に戻った。自分も戻ろうとした矢先、「あんたの家は壊され、見知らぬ人間が住み着いている」と人づてに連絡があり、帰還をあきらめた。</p> <p>表通りに面した商店街でCD店を営むザドラさん(24)は、生後8カ月の時両親と一緒にペシャワルに来た。アフガンの生まれ故郷については全く記憶にない。「ペシャワルこそが私の故郷だ。治安が悪い母国に戻る気はない」</p> <p>UNHCRなどの05年の調査によると、「帰還したくない」と答えた難民は82.6%。その理由は「住む場所がない」(57.2%)、「生計を立てる手段がない」(18.2%)、「治安が悪い」(17.8%)だった。</p> <p>「無法地帯」激しい攻撃予告</p> <p>極端なイスラム思想でアフガニスタンを一時的に支配し、国際テロ組織アルカイダのリーダーらをかきまわるとされるタリバーン政権は、01年秋の米軍による空爆で崩壊した。しかし、残存勢力の多くは国境を越えてパキスタン側に逃げた。</p> <p>彼らが身を潜めたのは、タリバーンと同族のパシュトゥン人が住む国境付近の「部族地域」だ。部族地域は「客人歓待」「武勇」などの価値観に基づく慣習法によると大幅な自治が認められている。パキスタン国内法が適用しない「無法地帯だ」。</p> <p>タリバーンにかくまわれていたアルカイダのリーダー、オサマ・ビン・ラディン容疑者やナンバー2、ザワヒリ容疑者など主要幹部らは、現在も両国の国境地帯に潜んでいるとされる。</p> <p>タリバーンの内情に詳しい地元記者によると、タリバーンは難民キャンプなどで若者に目をつけ、自爆テロ要員として勧誘。若者たちは部族地域に送られて軍事訓練を受けた後、地元のタリバーン支援者の手引きで極秘に国境を越える。</p> <p>パキスタンのイスラム過激派メンバーや外国人がこの地域を訪れ、タリバーンに志願するケースもある。タリバーンの再組織化が着々と進んだ。タリバーンは昨年5月以降、アフガン駐留米軍や国際治安支援部隊（ISAF）、アフガン国軍などに対し、自爆テロを含めた攻撃を頻繁に実行している。その結果、昨年だけで民間人や外国軍兵士を含めて約4千人が死亡。旧政権の崩壊以降で最多だった。</p> <p>「今年は昨年以上に激しい攻撃を展開する。多くの若者をアフガンに浸透させることができた」。タリバーン指導部に近いある幹部は言った。</p> <p>パキスタンのムシャラフ大統領は2月に入り、記者会見で部族地域に潜伏するタリバーン司令官の実名を挙げ、「我が国への重大な脅威だ」と述べた。1月以降、同国では首都イスラマバードを含めて自爆テロ攻撃が7件起きたが、それらを指揮したのはそうした司令官だとされる。</p> <p>もともとパキスタン軍部は、01年の米同時多発テロまでタリバーンを支援していた。米国などの圧力でムシャラフ政権がタリバーンへの締め付け</p>		

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>を強めれば強めるほど、タリバーンは政権への報復を強め、国内の治安悪化を招くというジレンマに陥っている。</p> <p>アフガン難民キャンプは国内に約100カ所あり、200万人以上が暮らす。タリバーンに詳しい地元記者は「四つを閉じてもタリバーンは他の場所に移るだけで、むしろテロリストを拡散させる」と、効果を疑問視している。</p> <p>&lt;キーワード&gt;タリバーン</p> <p>パキスタンとアフガニスタンの国境地帯のマドラサ（イスラム宗教学校）で学ぶ学生を中心に、94年に組織された原理主義グループ。内戦に明け暮れる軍閥に嫌気がさした国民の支持もあり、98年にはほぼアフガン全土を支配した。しかし女性の就労や教育、テレビなど娯楽も禁じる極端なイスラム法を適用し、国内外の反発を招いた。指導者オマール師は国境地帯に潜伏しているとされる。</p> <p>アフガニスタンの主な動き</p> <p>79年12月 ソ連軍、アフガン侵攻  89年2月 ソ連軍撤退完了  96年9月 タリバーン、カーブル制圧  01年9月 米同時多発テロ  10月 米軍などアフガン空爆  11月 カーブル陥落  12月 アフガン主要4勢力、暫定政権発足とその後の和平プロセスで合意  12月 国連安保理決議に基づき、(ISAF)創設。カーブルの治安維持に当たる  12月 カルザイ暫定政権発足  02年6月 移行政権発足  04年10月 大統領選でカルザイ氏当選。正式政権発足  06年5月 タリバーン勢力の攻勢強まる  7月 ISAFが南部展開  10月 ISAFが東部展開、計3万3千人がアフガンに駐留</p> <p>&lt;写真&gt;カチャガリ難民キャンプ。未舗装の細い路地を子どもたちが歩いていた＝ペシャワールで、北川写す</p>		
22日朝	<p>9 &lt;特派員メモ&gt; カーブル  ゴミで耐える冬</p> <p>電力不足が深刻なカーブルでは、平均で1日4時間ほどしか供給されないという。近年急増する小山の斜面に建てられた違法住宅には、電気そのものが引かれていない。</p> <p>零下に下がる冬の真っ暗な夜をどうしのぐのか。一般的なのはまきストーブだが、貧しい家庭の子はまきの足しにごみを集めていると聞いた。</p> <p>カーブル西部のごみ埋め立て地に行ってみると、確かに大きな袋を肩にしまった子どもたちの姿があった。袋の中身はペットボトルや鉄くず、段ボール紙。ごみを満載したトラックがやってくるたびに群がり、食べ残しからプラスチックまでがごたまぜになった中から、「収穫」を探す。</p>	(小暮哲夫)	

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
	<p>「鉄くずは7*<sub>□</sub>で1ドル、ペットボトルは2*<sub>□</sub>で1ドルで売れるよ」と年長格のハミード君（15）。「紙は家に持ち帰って、暖房と料理用に使うんだ」。話しの通りだった。</p> <p>家には電気も水道もない。7人兄妹の一番上。両親は失業中で「自分の収入で家族が暮らしている」。朝から夕まで毎日ここに来る生活は、もう10年。学校には行けない。</p> <p>「将来の夢は？」「ただ、政府に言いたい。ここで働くのは嫌だから、別の仕事がほしい」。別れ際、取材相手にいつもするように手を差し出した。握った手は真っ黒に汚れていた。</p>		
22日夕	<p>プロディ伊首相辞任 上院、外交方針承認せず アフガン駐留継続 与党内に亀裂</p> <p>投票では与党の中道左派連合のうちアフガニスタン駐留軍の撤退を求める最左派グループの一部が棄権に回った。</p> <p>上院では21日、ダレーマ外相がプロディ政権の外交方針全般を演説し、焦点のアフガニスタン駐留継続問題で「撤退すればイタリアは欧州で孤立する」と訴えた。投票した結果、賛成158,反対136,棄権24で、承認に必要な過半数に2票足りなかった。政府はすでにアフガニスタン駐留継続のための予算案を議会に提出している。（関係記事を抜粋）</p>	ローマ = 喜田尚	
27日朝	<p>&lt;番組&gt; 「アフガン女性議員の闘い」（再）</p>	NHK衛生第1 10:10-11:00	
27日夕	<p>英、アフガン1400人増派 計7700人、イラク上回る規模</p> <p>デズ・ブラウン英国防相は26日、アフガニスタンへの英軍部隊を今年5月から夏にかけ、計1400人増派する方針を英下院に報告した。これにより、アフガンに駐留する英軍の規模はイラク駐留部隊を上回り、計7700人となる。ブレア英首相はイラクからの段階的撤退を21日に発表したばかりで、今回の増派は英政府が「対テロ戦争」の力点をアフガンに移したことを象徴している。</p> <p>アフガンに駐留する英軍部隊は、北大西洋条約機構（NATO）主導の国際治安支援部隊（ISAF）の主力。ブラウン国防相は26日、仏独など他のNATO加盟国が戦闘部隊の派遣に慎重な姿勢を崩していないことから、英軍の増派が必要になったとの認識を示した。</p> <p>増派される英軍の大半はヘルマンド州に駐留し、タリバーン勢力との激しい戦闘が予想される南部一帯で活動する予定だ。同国防相は、現地の治安情勢やNATO加盟国の動向に大きな変化がない限り、09年まで同規模の部隊を維持するとしている。</p> <p>ブッシュ米政権が主導する「対テロ戦争」に呼応し、ブレア政権は03年のイラク戦争以来、イラクとアフガンで「二正面作戦」を展開してきた。負担増に対する懸念の声が軍内部からも上がり、方針転換を迫られたブレア首相は、イラクに駐留する部隊約7100人を数ヶ月以内に約5500人に削減すると発表している。</p>	ロンドン = 稲田信司	

2007年  
2月

面	見出し / 記事	通信社など	M. SEKINA
28日朝	7	アフガン テロで4人死亡 米軍機地内 副大統領が滞在中	イスラマバード = 北川学
		<p>アフガニスタンの首都カーブル北方にあるバグラム空軍基地付近で27日朝、自爆テロとみられる爆発があり、米軍報道官は米兵、韓国兵各1人と自爆犯を含む4人が死亡したと発表した。アフガン内務省は死者を18人としており、情報は混乱している。基地内にはアフガン訪問中のチェイニー副大統領が滞在していたが無事だった。</p> <p>タリバンの報道官を名乗る人物はロイター通信に、副大統領を狙った攻撃だったと認めた。地元警察によると、爆発は基地の正門から約500m内側にある「第2ゲート」前で発生。現場には基地で働くアフガン人労働者らが多数集まり、始業開始を待っていたという。</p> <p>チェイニー副大統領は26日にパキスタンのムシャラフ大統領と会談後、事前予告なしにアフガンを訪問、同基地に宿泊した。爆発音は副大統領にも聞こえ、シェルターへ避難したという。爆発後、カルザイ大統領との会談は予定通り行われた。</p>	
	40	<番組> 「追跡アフガンのヘロイン」(再)	NHK衛星第1 10:10-11:00
28日夕	2	チェイニー氏、一時退避 アフガントロ 治安悪化を露呈	ワシントン = 鷯飼啓
		<p>チェイニー米副大統領が滞在していたアフガニスタンのバグラム米空軍基地前で27日起きた自爆テロで、副大統領が避難施設に退避するなど基地内が一時緊迫していたことが分かった。米政府は副大統領を狙った標的ではないとの見方を強めているが、治安情勢の悪化に改めて注目が集まった形だ。</p> <p>チェイニー氏は同行記者団に「大きな爆発音が聞こえた」と語った。爆発があったのは午前10時ごろ。警備担当者に「正門前で攻撃があった」と告げられ、避難施設に短時間誘導されたという。チェイニー氏がいた場所は現場から1・6kmほど離れていたという。</p> <p>この自爆テロをめぐる旧政権勢力のイスラム過激派タリバンの報道官を名乗る人物が「副大統領を狙った攻撃だ」と主張しているが、米国側の反応は抑制的だ。</p> <p>チェイニー氏は電撃的にアフガンに入り、悪天候で滞在を延ばしたところにテロが起きた。自爆テロには周到な計画が必要で、CNNテレビは「(訪問時にテロが起きたのは)完全に偶然だ」との米軍広報官のコメントを伝えた。</p> <p>アフガン訪問には治安対策強化を働きかける狙いがあった。逆に情勢悪化を体感させられる羽目になったチェイニー氏だが、「我々の行動を何ら左右するものではない」と記者団に語った。</p>	
		<写真>自爆テロがあったアフガニスタンのバグラム空軍基地で27日、ロドリゲス駐留米軍司令官らと歩くチェイニー副大統領 = AFP時事	